

## はじめに

山口県教育委員会では、平成14年度から山口県における学校評価システムの在り方について調査研究を進めてきましたが、平成16年11月に「学校の評価システムに関する調査研究会議」から、これまでの研究の成果を取りまとめた報告書が提出されました。

この報告書では、学校評価は、学校間の優劣を比較するものではなく、教職員と保護者や地域の方々が、共によりよい学校づくりをめざして取り組む「学校改善のためのシステム」と位置付けております。また、各学校において、特に力を入れて取り組もうとする「重点目標」と、その実現に向けた「具体的方策」の達成状況について「自己評価」を実施するとともに、児童生徒や保護者等による「外部評価」を積極的に導入することなどが提言されております。

県教委では、この報告書を受けて、各学校において学校評価を具体的に進めるためのガイドラインを示した学校評価ガイドブック「よりよい学校づくりに向けて」を作成し、各学校に配付したところですが、このたび、3年間にわたる調査研究の中で、後半の2年間を実践協力校として取り組んできた9校の取組みの概要とその成果をまとめた「学校評価実践事例集」を発行することといたしました。

この実践事例集は、各実践協力校が山口県としての学校評価システムの導入や確立に向けて、様々な視点から取組みを行った内容をとりまとめたものであり、最終報告書で提言されたものとは異なる形態のものもありますが、学校全体としての取組みとして参考になるものも数多く含まれております。

各学校におきましては、本実践事例集を御活用いただき、教職員による自己評価だけでなく、児童生徒や保護者、地域住民等による外部評価も取り入れた学校評価システムの構築を積極的に推進されるよう願っています。